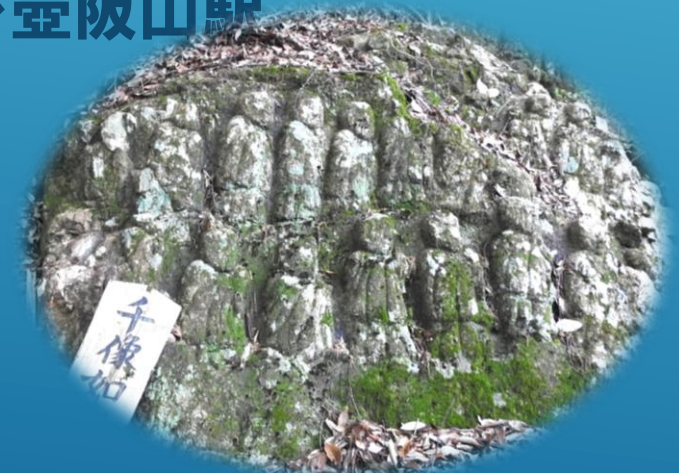


# 野外サークル 5月定例会 【高取山（標高：584M）】

2026年5月8日(金)

(コース) 壺阪山駅～壺阪寺～五百羅漢像～八幡口登山口  
～信楽寺～高取城本丸跡 <昼食>  
～国見櫓跡～猿石～上子島砂防公園～壺阪山駅



撮影・編集: H.Kiyohara





土佐街道を進む



石川医院



高取城跡方面へ右折



## 信楽寺(お里・沢市墓)

### しあわせの鐘



**お里・沢市の墓**  
**壺阪の**  
**月に杖ひく**  
**夫婦かな**

「日本感靈録」に九世紀初めの弘仁年中、盲目の彌が壺阪観音の信仰で開眼治癒したという話があり、「壺阪寺古老伝」に記されている。(すでにこの頃から本尊の十一面千手観音は民間の信仰を集めていたことがわかる。これは後世のいわゆる盲人開眼「壺坂靈験記」の原形になったものである。

この「お里・沢市」の物語は今より三百年以上も昔(寛文年間)壺阪寺のふもと、大和高取郷土佐町住む沢市という盲人と妻里の夫婦愛をテーマにした観音靈場記」に二世豊沢団平と妻の千賀女が加筆したものであり、浄瑠璃、歌舞伎に浪曲にとこの夫婦純愛物語は日本国中さらに海外にまで知れ渡っている。

## お里・沢市のお墓



その昔、土佐町に住んでいたと言われる男女をモデルにした物語。

盲人であった夫沢市の目の治癒を願い、壺坂観音に祈りを捧げる妻のお里。夜毎家を抜け出して密かに祈願を続けたお里でしたが、そんな妻の行動に疑問を感じた沢市はお里の後を付けます。そこで、健気に自分のために祈る妻の姿を見つけます。妻を疑った自分を恥じた沢市は、深い谷に身を投げます。なんとということでしょうか・・・

さらにそれに悲しんだお里も後を追うように身を投げたと云います。お互いを想う気持ちから身を投げてしまった二人でしたが、観音様のお慈悲により生き返ることになります。壺坂観音様もさすがに二人を見捨てることができなかつたようです。今も脈々と語り継がれる二人の物語は人々の心の中で生き続けます。



壺阪寺方面へ



ハイキング道： 林道から険しい上り道

# 壺阪寺（真言宗）



- 西暦七〇三年弁基上人によって開かれた霊山、壺阪山南法華寺。
- 西国観音霊場の第六番札所で眼病封じのお寺とも呼ばれている。

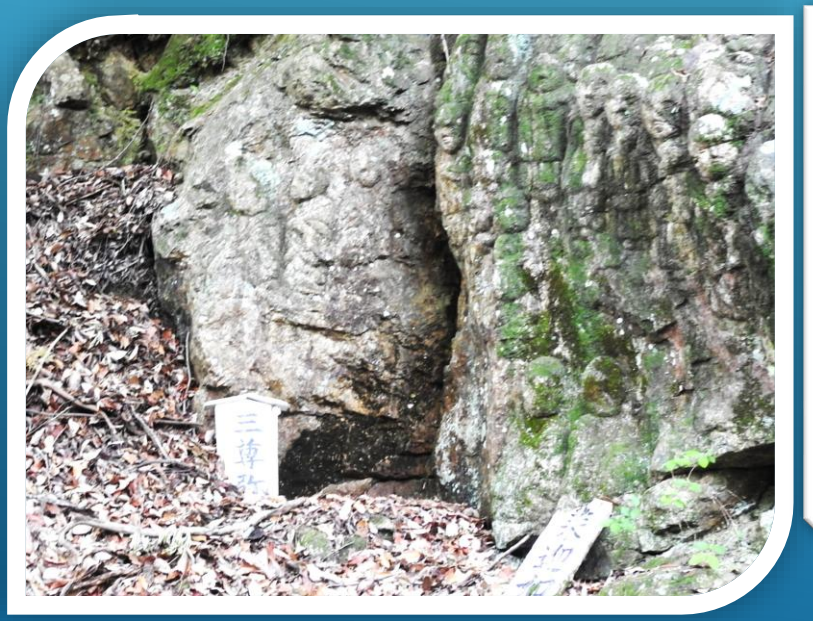
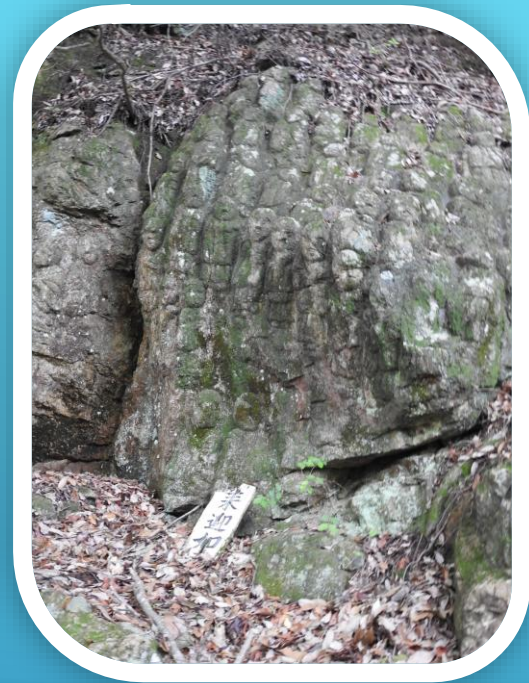


五百羅漢像方面へ

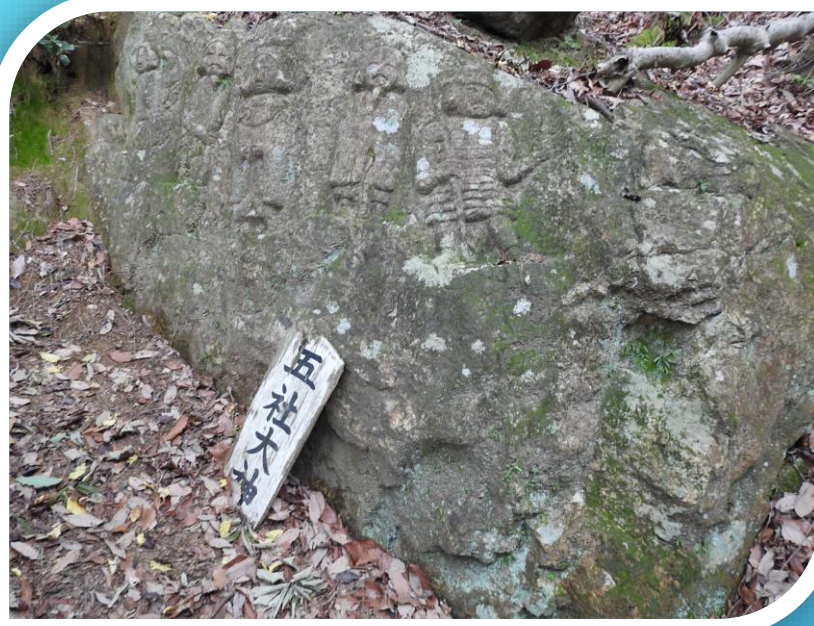
## 五百羅漢像

- 壺阪寺から300mほど東方の壺阪寺奥の院と呼ばれる香高山（こうこうさん）の岩の斜面に、多数の磨崖仏がある。
- 岩肌に多数の羅漢像が刻まれており、「五百羅漢」と呼ばれている。
- また、近代に多数の信者が奉納した地蔵像も並べられている。

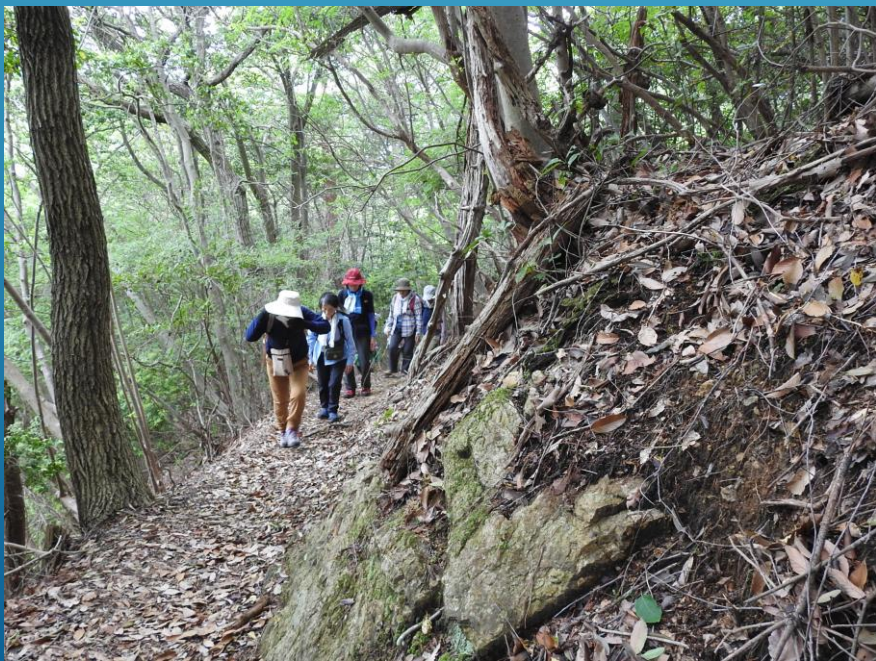




五百羅漢像



五百羅漢像



高取城跡への登山道を進む

# 史跡 高取城跡

高取城跡は、奈良盆地の南端、標高五八四mの高取山の山頂を中心に、急峻な山上の地形を巧みに利用して築かれている。何段にも重ねた石垣や喰違い虎口(出入口)、急斜面により守られ、山麓の城下町との比高差は四〇〇m以上を測る。

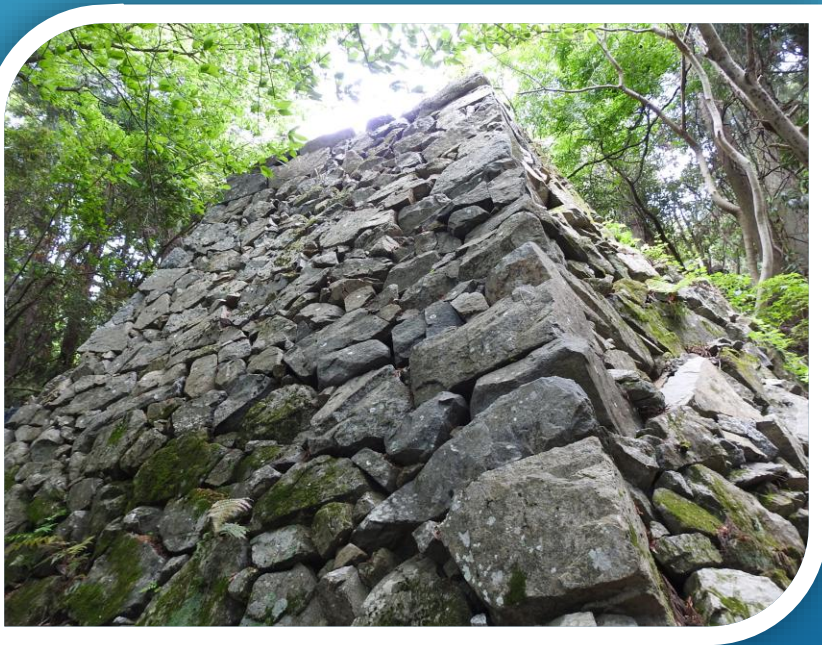
十四世紀前半に土豪越智氏が南朝の呼びかけで築城したのが始まりといわれている。織田信長の「国破城により、天正八年(一五八〇年)に一旦は廃城となるが、天正二年(一五八四年)の筒井順慶による復興をへて、豊臣秀長の家臣本田氏により天正から慶長の頃(十六世紀末〜十七世紀初頭)に近世城郭として完成した。その後江戸時代に入り、寛永一四年(一六四〇年)に譜代の植村氏が入部して二万五千石の居城とした。以後明治維新まで、植村氏が四代に渡って城主となった。山上に本来の城と家臣の屋敷地を取り込んで、城と城下町の二様相を山城としてまとめた特徴ある形であった。そのため山城としては広大にならざるを得なかった。しかし、平穏な時代には山上の生活が不便なため、藩主をはじめ多くの家臣が山を降り、その結果、城郭と城下町が離れた特異な形態となっている。

二の門・壺坂口門・吉野口門の内側は「城内」とよばれ、山中のすべての曲輪を含んだ範囲が「郭内」とよばれている。現在は、郭内に建造物は残っていないが、広大な縄張りや堅牢な石垣群が残されており、国史跡に指定されている。

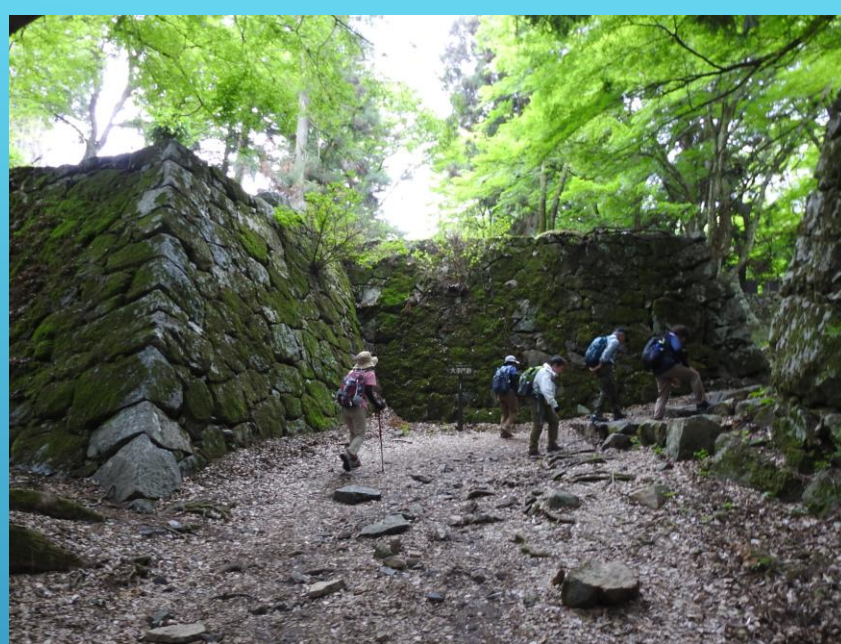
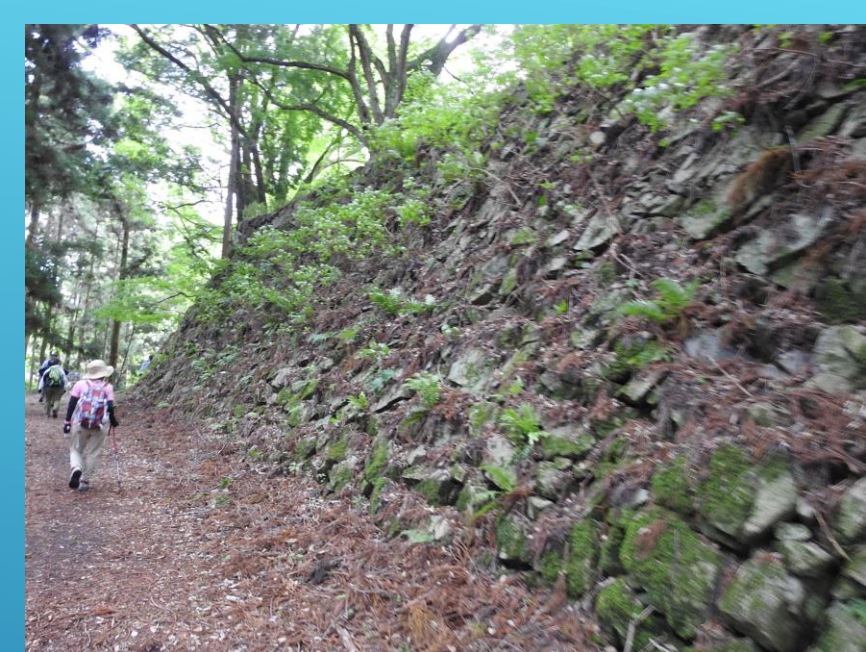
指定年月日 昭和二十八年三月三十一日  
平成二十三年三月 奈良県教育委員会



高取城跡本丸方面へ



高取城跡本丸方面へ



高取城跡本丸方面へ

# 日本三大山城説明板

この三つの城は、財団法人日本城郭協会が歴史遺産として作る城として日本百名城に認定されており、日本三大山城サ  
開催し交流を深め保存と活用に努めている

## 大和高取城

奈良県高取町

標高584mの高取山の山頂に戦国時代豊臣秀長が大和郡山城の詰め城として大修築を行い堅牢な城として完成した。城跡一帯に残る巨大な石垣は壮大でその威容を偲ぶことができ、その規模と城下町から城まで全国で最も比高(446m)がある山城であり岐阜県美濃岩村城と岡山県備中松山城とともに日本三大山城の一つに数えられている。



## 美濃岩村城

岐阜県恵那市

標高721mの最も高い所に建つ山城で天嶮の形を利用した要害堅固な石垣が築かれている。戦国時代幾多の戦乱の舞台ともなり、時の城主山影任没後その妻が采配をする女城主の時もあった。

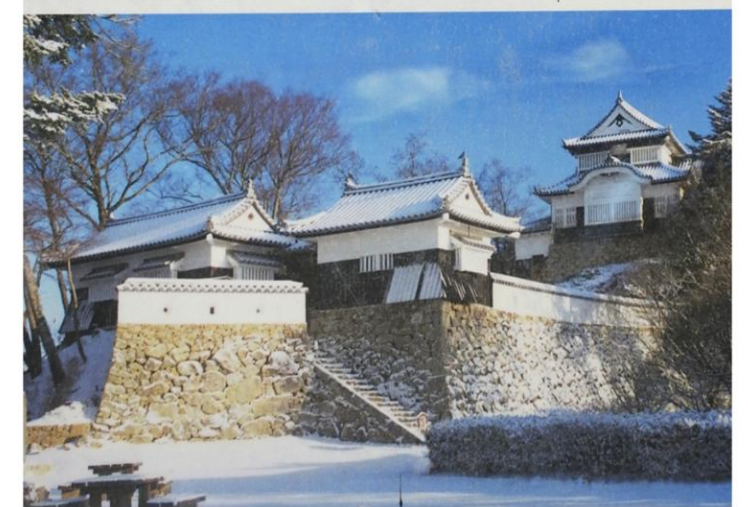


## 備中松山城

岡山県高梁市

標高480mに天守、二重櫓、土塀の一部が現存しており現存する城の中でも最も高い所に建つ山城である。巨大な岩壁が防御となり、戦国の激しい戦いに耐えた難攻不落の城の面影がうかがえる。

昭和16年には国宝、昭和25年には重要文化財の指定を受けた。





御神木



**本丸**

本丸は大小二棟の天守閣と鉛櫓 煙硝櫓 多間櫓(臺上に設けた細長い単層の櫓)と堀によって接続する。これを連立式形態といっている。東西四十間余(約七三米)南北三五間(約六四米)の凸字型の平面をなしている。地型の変化に対応して築かれた山城は、自然に不規則な縄張りとなる。しかし、この本丸は平城城郭のま 整然さを有するので築城技術の完成したころの構築とみなされる。

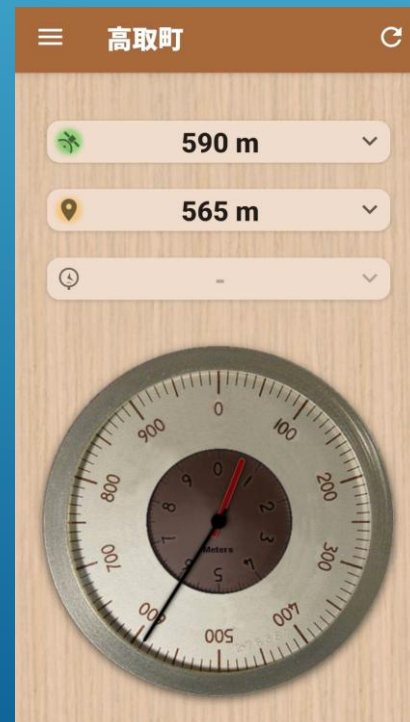
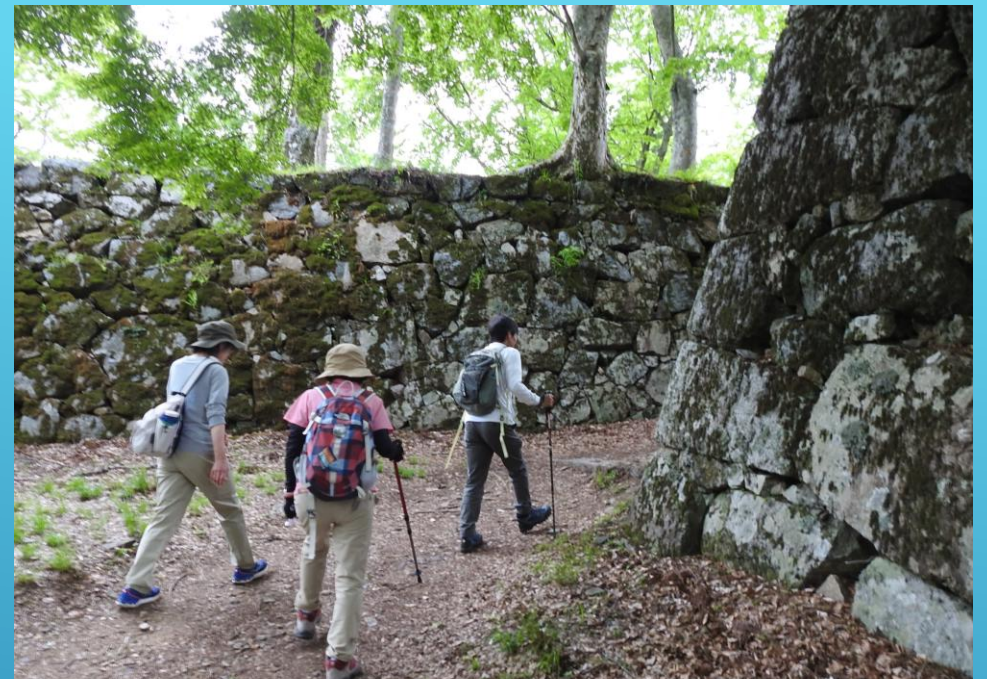
昭和四七、四八年度の県教育委員会の高取城修理にもない 本丸東北隅の部分を対象に、石垣の実測、根石の状態を調査したが、石垣のみみの部分は後補のものであり、隅石には転用材を使用していることが明らかになった。鞍馬石の中には漆喰の付着した石が二箇検出され、切石古ぼの石を使用したものと想定されている。漆喰に付着したものは、桜井付近の古墳漆喰の分析値と一致していると報告されている。

また、本丸鉛櫓下の背面に補助的の礎石が付台皿の下に配列された胴木の存在は、山城での遺存例として現在のところ、唯一の発見例で注目すべきものである。

奈良県教育委員会

## 高取城本丸跡 <昼食>

- 「本丸跡」は国の指定史跡。  
東西約75m、南北約60mもあったとされ、  
石垣の高さも約8m。
- ・ 白漆喰の外観だったとされる天守  
(16m×14m)に加え、3重3階の小天守  
や複数の櫓があったとみられている。

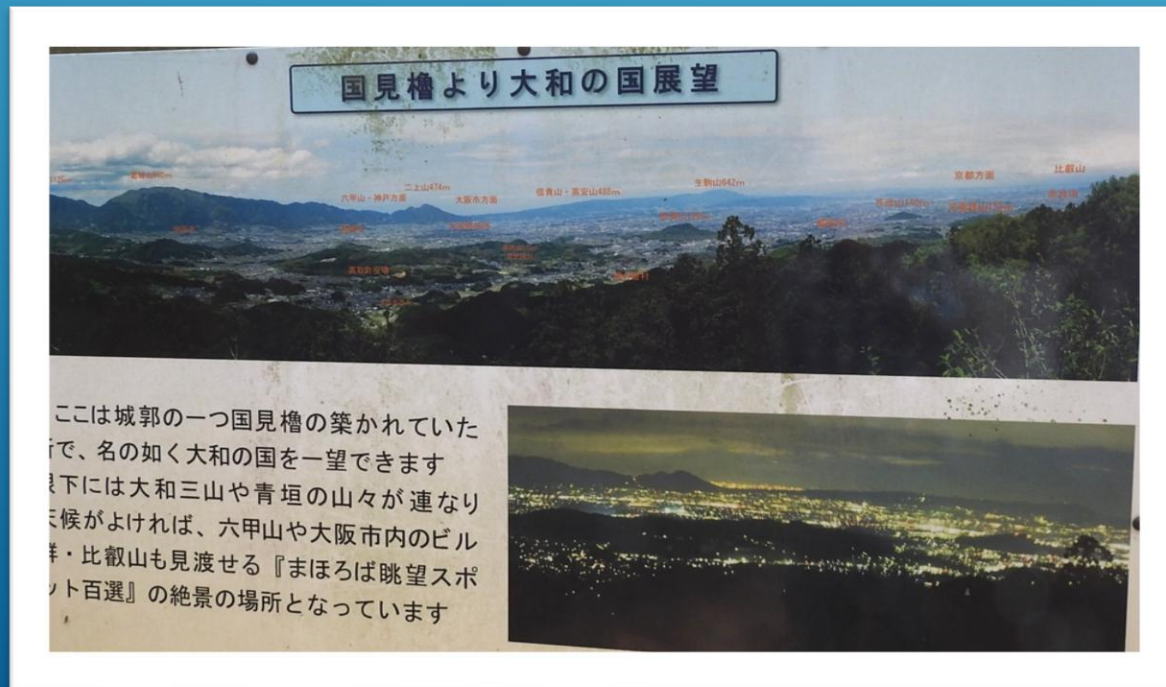




昼食後のスタート： 国見櫓跡方面へ

## 国見櫓跡

- ・国見櫓跡（くにみやぐらあと）。その名の通り、非常に見晴らしの良い空間が広がっている。
- ・天気の良い澄んだ日には、大阪府にある「あべのハルカス」まで見渡すことが可能。



# 猿石



高取町指定文化財

## 猿石 (やまこい)

高取城二の門外に所在し城下町に下る大手筋と明日香村栢森へ下る道筋の分岐点に位置する。花崗岩製で高さ85cm幅75cm厚さ65cmを測る。目と鼻は円形で顔面は丸く平坦である。口元の両端をあげ耳は顔側面の全体にとる。手は右手をややあげて、陽物らしい表現もみられる。背中にも表現がみられるが明確ではない。飛鳥の「猿石」と同様に現在の明日香村平田から掘り出され高取城築城の際に石垣材として運ぶ途中にこの場所に置かれたようである。飛鳥時代の製作と考えられている。猿石がのせられている台石は古墳の石材の可能性が有る。

高取町教育委員会

壺阪駅方面へ下山



壺阪駅方面へ





県文化財指定（昭和三十五年七月二十八日）  
**植村家長屋門**  
植村家長屋門は、文政九年（一八二六年）の建立で、一重入母屋瓦葺造り、門内の東西に各四室の部屋がある。  
江戸時代は、高取藩に仕える中間たちが、それぞれの部屋に住んでいた。  
近世武家屋敷表門の遺構を残している貴重な建物である。  
当時は城代家老の役宅であったが、現在は旧藩主植村氏の住居となっている。

奈良県教育委員会  
高取町教育委員会



**ゴール：壺阪駅**